

山形森林管理署の沿革

- 明治25年(1892) 山形小林区署・朝日小林区署(明治31年に寒河江小林区署に改称)・楯岡小林区署を設置
- 大正13年(1924) 山形小林区署を山形営林署に、寒河江小林区署を寒河江営林署に、楯岡小林区署を楯岡営林署にそれぞれ改称
- 昭和22年(1947) 林政統一により国有林のすべてを農林省が所管。企業的運営による独立採算方式の特別会計制度を採用
- 昭和31年(1956) 楯岡営林署を村山営林署に改称
- 昭和63年(1988) 寒河江営林署を山形営林署に統合し寒河江市に新築移転。蔵王森林センターを設置
- 平成11年(1999) 村山営林署を山形営林署に統合し山形森林管理署に改称。村山事務所を設置
- 平成13年(2001) 村山事務所及び蔵王森林センターを山形森林管理署に統合
- 平成25年(2013) 組織・事業のすべてを一般会計へ移行

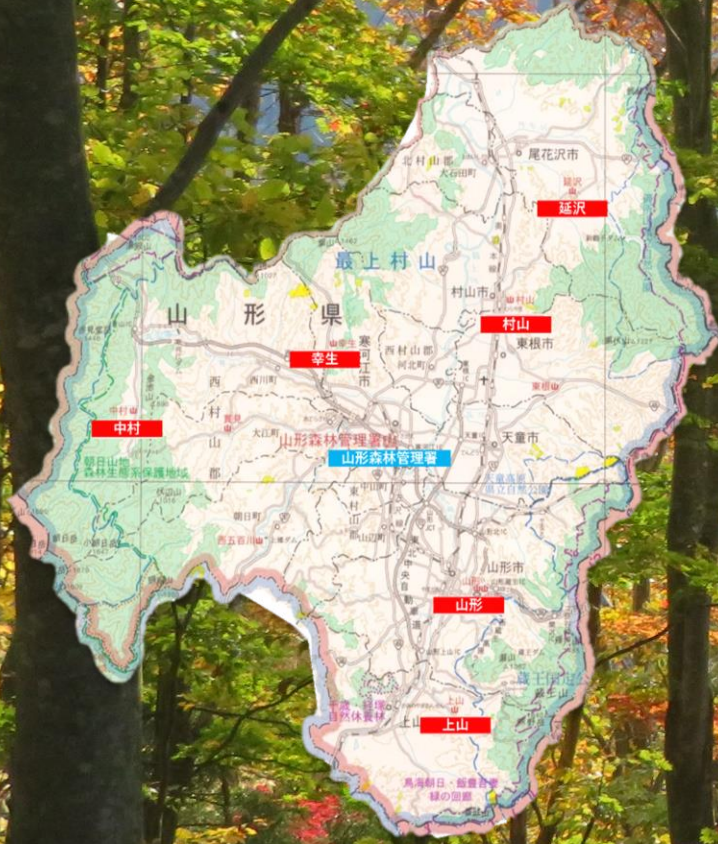
組織体制

- 【本署】(寒河江市元町)
 - 署長
 - 次長
 - 地域林政調整官
 - 森林技術指導官
 - 森林情報管理官
 - 総括事務管理官 (総務グループ)
 - 総括森林整備官 (業務グループ)
 - 総括治山技術官 (治山グループ)
- 【森林事務所】
 - 山形(山形市小白川)
 - 上山(上市市永野)
 - 中村(西川町大井沢)
 - 幸生(寒河江市幸生)
 - 村山(村山市楯岡苗田)
 - 延沢(尾花沢市延沢)

林野庁東北森林管理局 山形森林管理署の概要

令和6年度 (2024年度)

管内図



【基本データ(国有林の地域別森林計画)】

国有林の面積 77,320 ha
(管内の森林面積172,486ha。国有林の割合45%)

国有林の蓄積 935万0千m³
(針葉樹340万9千m³。広葉樹594万0千m³)

【主な事業量(令和6年度計画)】

- <素材(丸太)生産(収穫量)> 4万5千m³
- <立木販売(収穫量)> 4万1千m³
- <造林> 植付:30ha 下刈:107ha
- <林道> 新設:1,618m 改良:720m
- <治山> 山腹工、谷止工等



林野庁 東北森林管理局
山形森林管理署
〒991-0053
山形県寒河江市元町1-17-2
電話 0237(86)3161



昭和63年(1988)竣工。木造2階建て。庁舎正面玄関に県内産スギ磨き丸太を配しています。



東北森林管理局広報誌
「みどりの東北」スマホ版アクセスQRコード

岩根沢国有林(西川町))

木材の安定供給



広葉樹資源の活用



作業現場の安全確認
(労働基準監督署合同パトロール)



巻き立てられた木材



地上レーザスキャナによる
収穫調査



筋刈の実施箇所



林道改良工事
(進捗状況の確認)

多様な森林づくり



伐って植える循環の促進
(需要地への輸送を待つ素材)

山形森林管理署は、山形県村山地域の国有林約77千haを管理しており、北側に「葉山」、東側は「御所山」、「熊野岳」などの奥羽山脈と接し、西側は「月山」、「大朝日岳」などに囲まれた一帯で、中央部を「最上川」が貫流しています。また、「磐梯朝日国立公園」、「蔵王国定公園」、「御所山県立自然公園」や、「奥羽山脈緑の回廊」、「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」が指定されています。蔵王地域ではオオシラビソ(別名アオモリドマツ)の枯損が発生しており、森林総合研究所東北支所や山形県森林研究研修センター等の専門機関等と連携・協力のもと、森林再生に向けた取組を行っています。



地域を対象とした林業技術に関する現地検討会

安全・安心な暮らしを守る治山事業



木製型枠を使用した谷止工



上段左から月山、蔵王坊平、神通峡、下段左から白鷹山、葉山、山刀伐峠

森林とのふれあい／地域との連携



地元小中高生によるオオシラビソ(別名アオモリドマツ)の再生に向けた自生稚樹の移植体験



地すべりボーリング調査



千歳山のリングネット柵工



治山技術の研修活動



山形県林業まつりへの参加



国有林野等所在市町村長
有志協議会



40年続く村山ふるさと教育の森
植樹体験